

現代文

集中トレーニング①

- ・ 文章の論旨を理解する
- ・ 重要語彙 300



読解問題①

●次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

① じぶんの身体というものは、だれもがじぶんのもつとも近くにあるものだとおもっている。たとえば包丁で切った傷の痛みはわたしだけが感じるもので、他人は頭でわかって、わたしの代わりに痛んでくれるわけではない。その意味で、わたしとはわたしの身体であるといえるほどに、わたしはまちがいにわたしの身体の近くにありそうである。ところが、よく考えると、^②わたしがじぶんの身体についてもっている情報は、ふつう想像しているよりもはるかに貧弱なものだ。身体^③の全表面のうちじぶんで見える部分というのは、ごく限られている。だれもじぶんの身体の内^④部はもちろ^⑤ん、背中や後頭部でさえじかに見たことがない。ましてや、他人がこのわたしをわたしとして認知してくれるその顔は、終生見ることができない。そして難儀なことに、この顔に、じぶんではコントロール不可能なじぶんの感情や気分が露出してしま^⑥う。いってみれば、ひとはじぶんの身体を、いわば目隠ししたまま経験するほかないのであ^⑦って、危ういばかりに無防備なのであ^⑧る。

(鷲田清一「哲学の使い方」による)

15

問 本文中の 部①～④の中で筆者が最も主張しようとしていると言えるのはどれか。 適当なものを一つ選べ。

語彙問題①

●次の言葉の意味として、最も適当なものをA～Dから一つ選べ。

① 煽る

- A そのかす B ごまかす
C さわぐ D うちあける

② 論う

- A おせじを言う B 大声を出す
C からかう D 欠点などを言い立てる

③ 与る

- A 奪い取る B 関係する
C 打ち明ける D 信用する

④ 綾なす

- A 美しくいろどる B 丁重にもてなす
C 不思議な感じを与える D 機嫌をとる

⑤ 安堵する

- A 心配する B 思い浮かべる
C 心がおちつく D 安くする

⑥ 言いくるめる

- A 巧みに話して、自分の意見に従うようにさせる
B 強い口調で話して、相手をだまらせる
C 優しく話して、気持ちを落ち着かせる
D 元気に話して、場を盛り上げる

⑦ 息巻く

- A 息苦しくなる B 激しく言い立てる
C 呼吸を整える D 恐怖で声を震わせる

⑧ 依拠する

- A よりどころとすること B 占領すること
C 偉そくに振る舞うこと D 立ち止まること

⑨ 憩う

- A 努力すること B 人と会うこと
C 外出すること D くつろぐこと

⑩ 一瞥する

- A 少し見下す B つめたく見る
C にやりと見る D ちらっと見る

●この文章は、まず「じぶんの身体というものは、だれもがじぶんのもつとも近くにあるものだ」という一般的な考えを述べ、6行目以降で筆者の考えが述べられるという構成になっています。

【一般的考え】

①「じぶんの身体というものは、だれもがじぶんのもつとも近くにあるものだ」ともっている。たとえば包丁で切った傷の痛みはわたしだけが感じるもので、他人は頭でわかつて、わたしの代わりに痛んでくれるわけではない。その意味で、わたしとはわたしの身体であるといえるほどに、わたしはまがわなわたしの身体の近くにありそうである。ところが、よく考えると、わたしがじぶんの身体についてもつ

5

ている情報は、ふつう想像しているよりもはるかに貧弱なものだ。身本の全表面のうちじぶんで見える部分というのは、ごく限られている。【具体例】だれもじぶんの身体の内蔵はもちろ、背中や後頭部でさえじかに見たことがない。ましてや、他人がこのわたしをわたしとして認知してくれるその顔は、終生見ることができない。そして、難儀なことに、この顔に、じぶんではコントロール不可能なじぶんの感情や気分が露出してしまふ。いつてみれば、ひとはじぶんの身体を、いわば目隠ししたまま経験するほかないのであつて、危ういばかりに無防備なのである。

10

15

問 本文中の 部①～④の中で筆者が最も主張しようとしている
と言えるのはどれか。 適当なものを一つ選べ。

■論理の整理

① じぶんの身体というものは、だれもがじぶんのもつとも近くにあるものとおもっている。 【一般的考え】

【具体例】 包丁で切った傷の痛みはわたしだけが感じるもので、他人が痛んでくれることはない。

ところが

② わたしがじぶんの身体についてもっている情報は、ふつう想像しているよりもはるかに貧弱なものだ（わたしたちは、じぶんの身体についてあまり知らない）。

筆者の考え

【具体例】 だれもじぶんの身体の内蔵、背中や後頭部でさえじかに見ることがない。
ましてや、他人がこのわたしをわたしとして認知してくれるその顔は、終生見ることができない。
④ この顔に、じぶんではコントロール不可能なじぶんの感情や気分が露出してしまふ。

いつてみれば

ひとはじぶんの身体を、いわば目隠ししたまま経験するほかないのであつて、危ういばかりに無防備なのである。

このように①の一般的考えに対して、筆者は②で自らの考えを述べ、それ以降では具体的な説明（③④はここに相当）をしているのです。したがって、解答は②になります。

解答 ②

①	煽る	主な意味	① 相手がその気になるようにしむける。おだてる。「客の購買意欲を煽る」 ② 風や火の勢いで物を動かす。「風にカーテンが煽られる」	解答	A
---	----	------	---	----	---

②	論う	主な意味	① 欠点や短所などをことさらに言い立てる。「失敗を論う」 ② 物事の是非を論じる。「細かいことをいちいち論うことはやめよう」	解答	D
---	----	------	---	----	---

③	与る	主な意味	① 関係する。関与する。「計画立案に与る」 ② （目上の人から）恩恵などを受ける。「お褒めに与る」	解答	B
---	----	------	--	----	---

④	綾なす	主な意味	美しい模様をつくる。「錦綾なす秋の山々」	解答	A
---	-----	------	----------------------	----	---

⑤	安堵する	主な意味	① 安心すること。心が落ち着くこと。「知らせを聞いて安堵した」 ② 中世・近世に、土地の所有者などを將軍や領主が保証し、承認すること。「本領安堵」	解答	C
---	------	------	--	----	---

⑥	言いくるめる	主な意味	言葉巧みにごまかす。「黒を白と言いくるめる」	解答	A
---	--------	------	------------------------	----	---

⑦	息巻く	主な意味	① 激しく言い立てる。「必ず勝つと息巻く」 ② 息づかいが荒くなるほど激しく怒る。「絶対に許さないと息巻く」	解答	B
---	-----	------	---	----	---

⑧	依拠する	主な意味	よりどころとすること。「弁証法に依拠する」	解答	A
---	------	------	-----------------------	----	---

⑨	憩う	主な意味	休む。休憩する。「木陰に憩う」	解答	D
---	----	------	-----------------	----	---

⑩	一瞥する	主な意味	ひと目ちらつと見ること。「彼はこちらを一瞥しただけで、何も言わなかった」	解答	D
---	------	------	--------------------------------------	----	---

読解問題 ⑮

●次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

私が体験したアメリカの子供との会話について語ることにしよう。日本の子供たちとアメリカの子供たちの間には、一般的にいつて、大きな相違があるように私は思う。日本の子供たちは、私が何かたずねたり、話しかけようとすると、恥ずかしそうに振舞う。もちろんお互いよく知った間柄の場合には、このようなことは起こらないが、未知の人間である場合には、ほとんど常に起こることである。知っていることをたずねられても、なかなか返事をしようとしな

いところが、アメリカの子供たちでは、事情がだいぶ異なる。質問についてたしかめようとするし、理屈をかなり堂々とのべる。そうして、because, because を連発しながら、理屈の正当性を訴えてくる。日本の子供たちが恥ずかしがる理由のひとつには、この理屈がうまくみつからないということもあるような気がする。論理に従って話をする習慣がある場合には、話し合っている間にも、論をたてていけるから、自分の考え方をえしつかりしていれば、少しも困ることはない。さらに、子供ではあっても、たとえ幼稚ではあっても、論理的に考えて、自分の意見を組み立てて行く習慣を身につけているし、たいていの場合、自身の考えや意見が自分の中にできているので、たじろぐ必要もない。だからこそ、解らなければ直ちに「私は知りません」とか「わかりません」とはつきりいえるのである。

アメリカではたぶん、子供が論理的に思考して行けるように、親が教育しているのではないかと、私はよく考えた。日本の子供たちが方が、はるかに利口に見えるのに、このような大きなちがいがでて来るのは、親の教育、あるいはしつけによるのではないだろうか。

20

15

10

5

日本の子供たちも、小さい時にはよくいろいろなことについて質問をするし、いろんなことがらについて自分なりの理屈をいうはずである。この理屈には、自分なりに考えた、矛盾のないような論理が一本貫かれているのが普通である。大人である私たちからみれば、ほんのつまらない理屈ではあっても、子供自身にしてみれば、たいへんな努力の結果えられたものであるう。こうした努力の結晶ともいえる理屈を、日本では親たちがあまり真面目に聞いてやろうとしないのではないだろうか。

30

40

日本には、理屈、いい代えれば、論理的な思考を妙に卑しみ、さげすむ傾向が大人たちの中にある。「へりくつ」という言葉があるのがその証拠であろう。このような世界で幅を効かすのは、諺なら「論より証拠」ということであろう。こういう感覚的な世界に浸っている親たちにむかって、子供が理屈を述べたら、いったいどういうことになるだろうか。たぶん、論理的に考える芽を摘みとることに、親たちが懸命となるだけであろう。子供たちに論理的思考能力が育たないことの責任は、子供たちと接触する時間の長い母親に、大きな責任がありそうな気がしてならない。

アメリカの場合と同じように、 なら、日本の子供たちは、はるかに創造力豊かな人間へと、成長して行くことと思われる。

(桜井邦朋「考え方の風土」による)

問 本文中の には筆者がこの文章で最終的に主張したいことが入る。その内容を二十字以内で答えよ。

語彙問題 ⑮

●次の言葉の意味として、最も適当なものをA～Dから一つ選べ。

141 排斥する

- A 裁判をおこす B 追い払う
C 敗退する D 主張する

142 伯仲する

- A 優劣がつけにくい B 親密になる
C 仲を取り持つ D 優れている

143 はぐらかす

- A 質問する B 無視する
C ごまかす D 白状する

144 跋扈する

- A 神社などでお祓いをする
B 有望な人を抜擢する
C 他人に気に入られようとする
D 思うがままにふるまう

145 鼻白む

- A 勝ち誇る B 驚く
C 興ざめする D 自慢する

146 はにかむ

- A いらだつ B 恥ずかしがる
C 悔しがる D 晴れ晴れとする

147 憚る

- A 遠慮する B 物などを借りる
C 嫌って避ける D 激怒する

148 反芻する

- A 自分の行いを反省する
B 命令などに背く
C 反対を押し切る
D 繰り返し考えたり味わったりする

149 ひしめく

- A 他人の欠点などを非難する
B 一触即発の状態になる
C 人や物が押し合うように集まっている
D 自分の技芸を披露する

150 歪む^{ひず}

- A 膝を屈する B 形がゆがむ
C 音楽を奏でる D 人をあざむく

25

解説 読解問題 15

●筆者はまず自身の体験談を挙げ、そこから日本の親たちに必要なこと（子供の論理的思考能力を育てる努力をする^{こと}）を主張しています。

私が体験したアメリカの子供との会話について語ることにしよう。
日本の子供たちとアメリカの子供たちの間には、一般的にいつて、大きな相違があるように私は思う。日本の子供たちは、私が何かたずねたり、話しかけようとすると、恥ずかしそうに振舞う。もちろんお互いよく知った間柄の場合には、このようなことは起こらないが、未知の人間である場合には、ほとんど常に起こることである。知っていることをたずねられても、なかなか返事をしようとしな

ところがある。アメリカの子供たちでは、事情がだいぶ異なる。質問についてたしかめようとするし、理屈をかなり堂々とのべる。そうして

because, because を連発しながら、理屈の正当性を訴えてくる。日本の子供たちが恥ずかしがる理由のひとつには、この理屈がうまくみつからないということもあるような気がする。論理に従って話をする習慣がある場合には、話し合っている間にも、論をたてていけるから、自分の考え方をえしつかりしていれば、少しも困ることはない。さらに子供ではあっても、たとえ幼稚ではあっても、論理的に考えて、自分の意見を組み立てて行く習慣を身につけているし、たいていの場合、自身の考えや意見が自分の中にできているので、たじろぐ必要もない。だからこそ 解らなければ直ちに「私は知りません」とか「わかりません」とはつきりいえるのである。

アメリカではたぶん、子供が論理的に思考して行けるように、親が教育しているのではないかと、私はよく考えた。日本の子供たちの方が、はるかに利口に見えるのに、このような大きなちがいがいで来るのは、親の教育、あるいはしつけによるのではないだろうか。

【日本の子供とアメリカの子供との違い】

【筆者の考え】

日本の子供たちも、小さい時にはよくいろいろなことについて質問をするし、いろんなことについて自分なりの理屈をいうはずである。この理屈には、自分なりに考えた、矛盾のないような論理が一本貫かれているのが普通である。大人である私たちからみれば、ほんのつまらない理屈ではあっても、子供自身にしてみれば、たいへんな努力の結果えられたものであろう。こうした努力の結晶ともいえる理屈を、日本では親たちがあまり真面目に聞いてやろうとしないのではないだろうか。

日本には、理屈、いい代えれば、論理的な思考を妙に卑しめ、さげすむ傾向が大人たちの中にある。「へりくつ」という言葉があるのがその証拠であろう。このような世界で幅を効かすのは、諺なら「論より証拠」ということであろう。こういう感覚的な世界に浸っている親たちにもかつて、子供が理屈を述べたら、いったいどういうことになるだろうか。たぶん 論理的に考える芽を摘みとることに、親たちが懸命となるだけであろう。子供たちに論理的思考能力が育たないことの責任は、子供たちと接触する時間の長い母親に、大きな責任がありそう

な気がしてならない。
アメリカの場合と同じように、 なら、日本の子供たちは、はるかに創造力豊かな人間へと、成長して行くことと思われる。

問 本文中の には筆者がこの文章で最終的に主張したいことが入る。その内容を二十字以内で答えよ。

■論理の整理

日本の子供たち… 私が何かたずねたり、話しかけようとすると、恥ずかしそうに振舞う。
一方
アメリカの子供たち… 質問についてたしかめようとするし、理屈をかなり堂々なぜなら
アメリカでは、子供が論理的に思考していけるように親が教育しているからだ。
しかし
日本の大人たちには、論理的な思考をさげすむ傾向がある。
だから
子供たちに論理的思考能力が育たないことの責任は、親たちにありそう

アメリカの場合と同じように、 親が子供の論理的思考力を育てる努力をする なら、日本の子供たちは、はるかに創造力豊かな人間へと、成長して行くことと思われる。

解答例 親が子供の論理的思考力を育てる努力をする

解説 語彙問題 15

141	排斥する	主な意味	認めがたいとして、退けること。「仲間から排斥する」	解答	B
-----	------	------	---------------------------	----	---

142	伯仲する	主な意味	優劣のないこと。「実力が伯仲する」	解答	A
143	はぐらかす	主な意味	問題をそらしてごまかす。「質問をはぐらかす」	解答	C
144	跋扈する	主な意味	勝手気ままに振る舞う。「悪徳業者が跋扈する」	解答	D
145	鼻白む	主な意味	①興ざめする。「発言を無視されて鼻白む」 ②気後れした表情を見せる。「相手の勢いに鼻白む」	解答	C
146	はにかむ	主な意味	恥ずかしそうにする。「はにかんだ笑顔」	解答	B
147	憚る	主な意味	①気をつかって差し控える。「人目を憚らずに泣く」 ②大きな顔をする。「はばをきかせる。「憎まれっ子世に憚る」	解答	A
148	反芻する	主な意味	①二度三度繰り返し考えること。「師匠の教えを反芻する」 ②牛などが、一度のみこんだ食物を胃から再び口中に戻して噛むこと。「牛は反芻する動物だ」	解答	D
149	ひしめく	主な意味	ひととところに多くの人や物が押し合うようにしている。「観光客がひしめいている」	解答	C
150	歪む	主な意味	(力が加わって) 形がゆがむ。「熱で容器が歪む」	解答	B

読解問題 ②4

●次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

人々は何のために文学を読むのか？ 修養、教養、美意識の向上、趣味の向上等々のためと答える人もあろうが、そしてそれは偽りではなく文学はそうした役目をはたしはするが、大多数の人々は文学が面白いからこそ、強制もされないのに進んで読むのである。人それぞれによって、何を面白いとするかは異なるかもしれないが、このことは否定できぬ事実だと思う。じつさい、ある一つの作品について人が発する評価の第一声はいつも、この小説は面白い、あるいは面白くないという形をとることは、われわれが日常経験によって確実に知っていることである。私はフランスでも観察していたが、フランス人たちも、絵画、彫刻等の美術ないし音楽については、美しいとか、すばらしいとか、さまざまにいうが、文学作品の場合はやはり多く、《intéressant——面白い》という言葉をつかう。描写がすぐれているとか、世界観が新しいとか、思想が深刻だとか、そういうことをいうのは、それからのことであって、文学ではまず面白い、面白くない、というのは注目すべき点である。われわれはこの素朴な基本的事実を無視してはならない。ところで、こうした態度はまちがっているだろうか？ 人間的な人生を生きる人間は、社会のために働くと同時に、自分の楽しみをもつ権利がある。その楽しみを文学のうちに見出そうとすること、つまり文学に面白さを求めようとする事、そうした要求自体は何ら不健全なものではなく、むしろ□□なものとして認めねばならない。

20 (桑原武夫「文学入門」による)

問 本文中の□□に入る適切な語句を選び、番号で答えよ。

- ① 正当 ② 不当 ③ 新鮮 ④ 高尚

語彙問題 ②4

●次の言葉の意味として、最も適当なものをA～Dから一つ選べ。

231 幼気な

- A 幼くていじらしい B すがすがしい
C 貧弱な D わがままな

232 慇懃な

- A 大げさな B わざとらしい
C 無礼な D 丁寧な

233 迂闊な

- A のんびりとくつろいでいる
B 自分勝手にわがままなである
C 注意や配慮などが足りない
D 思いもよらず突然である

234 婉曲な

- A 露骨な B 丁寧な
C 神妙な D 遠回しな

235 横柄な

- A ひかえめな B いばっているような
C 優しげな D 強情な

236 鷹揚な

- A お人よしな B おおざっぱな
C 素朴な D おおらかな

237 画然と

- A 区別がはっきりしている B 既に決められている
C 考え尽されている D 誤ったところのない

238 頑な

- A 緊張などから心の余裕がなくなる
B すこぶる健康ですこやかに育つ
C 自分の考えなどを変えようとし
D 自分の意見を持たず周囲を気にする

239 格好の

- A 特別である B 大好きである
C 例外的である D ちょうどよい

240 緩慢な

- A たいへん愉快である B 気ままでのびやかである
C のろのろとしている D 驚くほど単調である

●今回の文章は「人々は何のために文学を読むのか」を第一の論点としており、それに対して筆者は「面白いから」と述べています。そして、「そのように文学を読むことはまちがっているのか」を第二の論点としています。

【第一の論点】

人々は何のために文学を読むのか？

修養、教養、美意識の向上、

趣味の向上等々のためと答える人もあろうが、**そしてそれは偽りではなく文学はそうした役目をはたしはするが、大多数の人々は文学が面白いからこそ、強制もされないのに進んで読むのである。人それぞれ**

によって、何を面白いとすることは異なるかもしれないが、このことは5

否定できぬ事実だと思う。じつさい、ある一つの作品について人が発

する評価の第一声はいつも、この小説は面白い、**あるいは面白くない**

という形をとることは、われわれが日常経験によって確実に知ってい

ることである。私はフランスでも観察していたが、フランス人たちも、

絵画、彫刻等の美術ないし音楽については、美しいとか、すばらしい10

とか、さまざまにいうが、文学作品の場合はやはり多く、《interessant

——面白い》という言葉をつかう。描写がすぐれているとか、世界観

が新しいとか、思想が深刻だとか、そういうことをいうのは、それか

らのことであって、文学ではまず面白い、面白くない、というのは注

目すべき点である。**【第二の論点】**素朴な基本的事実を無視してはな15

らない。**ところで、こうした態度はまちがっているだろうか？**人間

的な人生を生きる人間は、社会のために働くと同時に、自分の楽しみ

をもつ権利がある。その楽しみを文学のうちに見出そうとすること、

つまり文学に面白さを求めようとすること、そうした要求自体は何ら

不健全なものではなく、**むしろ**なものとして認めねばならない。20

問 本文中の□に入る適切な語句を選び、番号で答えよ。

- ① 正当 ② 不当 ③ 新鮮 ④ 高尚

■論理の整理

人々は何のために文学を読むのか？

第一の論点

← 大多数の人々は文学が面白いから読む。人それぞれによって、何を面白いとす
るかは異なるかもしれないが、このことは否定できぬ事実である。

← こうした態度はまちがっているのだろうか？

第二の論点

← 文学に面白さを求めようとする、そうした要求自体は何ら不健全なもので
はない。

← むしろ

← **正当**なものとして認めねばならない。

解答 ①

231 幼気な

① 幼くていじらしく痛々しいさま。「悲し
みをこらえている幼気な姿」
② 幼くてかわいらしいさま。「幼気な子ど
も」

解答

A

232 慇懃な

礼儀正しく、丁寧であること。「慇懃な挨拶」
【関連語句】慇懃無礼…うわべは丁寧だが、
実は尊大であること。

解答

D

233 迂闊な

注意が足りないこと。うっかりしている
こと。「迂闊にも忘れていた」

解答

C

234 婉曲な

表現などが遠回しである。「婉曲に断る」

解答

D

235 横柄な

人を見下したような偉そうな態度をとる
こと。「横柄な口のきき方」

解答

B

240 緩慢な

① 動作がゆっくりしていて、のろいこと。
「緩慢な守備」
② 処置などが手ぬるいこと。「緩慢な対応」

解答

C

239 格好の

適当であること。ちょうどよいこと。「実
力を試すには格好の相手だ」

解答

D

238 頑な

融通がきかないさま。片意地であるさま。
「頑なに受け取ろうとしない」

解答

C

237 画然と

区別がはっきりしていること。「画然とし
た違いがある」

解答

A

236 鷹揚な

ゆったりと落ち着いているさま。小さい
ことにこだわらないさま。「鷹揚に構える」

解答

D

現代文

集中トレーニング②

- ・ 論理的に設問を解く
(理由説明問題／傍線部説明問題)
- ・ 重要語彙 300



読解問題①

●次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

現代における科学の発達はずばらしいものです。以前にはまったく神秘と思われたことがらの数多くが今では科学的に解明されるようになってきました。したがって、われわれがともすれば一切は科学によって解明されるであろうという期待を持つにいたることは無理からぬことです。しかし、それだからといってわれわれがすべてを科学的に研究すれば、それで万事が解決するというものではありません。

科学はただ事物のあり方を解明するものです。事物がいかなる仕方
で存在するかということ、それがどういう構造を持っているかという
ことを解明するものです。事実判断と価値判断とを混同してはなりま
せん。科学が与えるるのは、このうちの事実判断のみです。そうであ
るとすれば、科学がいくら発達したところで、一切が科学で解決され
るということはないはずです。なぜなら、科学が価値判断を与えない
とすれば、われわれはどうしても価値判断を与えてくれるものを必要
とするからです。

実際われわれは価値判断なしには生きてゆくことができません。わ
れわれは生きてゆく限り絶えず行為をしなければなりません、行為
するに当たってはいかなる行為をなすべきかということを考えねばな
りません。どういう行為がよいかという価値判断を下さねばなりませ
ん。われわれにとって不可欠なこの価値判断が科学によって与えられ
ないとするならば、われわれには科学以外のものがが必要です。そして、

語彙問題①

●次の言葉の意味として、最も適当なものをA～Dから一つ選べ。

① 隘路

- A 疲労
- B 困難
- C 幸運
- D 歴史

② 斡旋

- A 人をだまして陥れること
- B 人を信用して命令に従うこと
- C 人と人との間をとりもつこと
- D 人と人との間を引き裂くこと

③ 軋轢

- A 不安
- B 不運
- C 不利
- D 不和

④ (い)と(ば)の綾

- A 言い回し
- B 意味
- C 知識
- D やりとり

この価値判断を与えようとするのが哲学の主たる仕事といえるのではないでしうか。そうであるとすれば、われわれは哲学というものを否定し去ることはできないはずです。

(岩崎武雄「正しく考えるために」による)

問 傍線部「われわれがすべてを科学的に研究すれば、それで万事が解決するというものではありません」とあるが、筆者がそのように考えるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① どれだけ科学が発達しても、世の中には解明できない事物が確実に存在するから。
- ② 科学は事物の存在の仕方や構造を明らかにする役割を果たすだけであるから。
- ③ われわれは事実に関する判断とその価値に関する判断とを混同することがあるから。
- ④ 科学で解明できるのは事物の表面的な部分に過ぎず、その核心は分かっていないから。

⑤ 阿諛

- A 偉そうな態度をとる
- B 気に入られるように振る舞う
- C からかいばかりにする
- D 一生懸命に説得する

⑥ 有り体

- A 無事である
- B 偶然
- C ありのまま
- D いきなり

⑦ 安逸

- A 気ままに楽しむこと
- B 安定しないこと
- C 安心して任せること
- D 長生きすること

⑧ 行脚

- A 故郷に帰ること
- B 徒歩で諸国を旅すること
- C 外国に留学すること
- D 近くを散歩すること

⑨ いきさつ

- A 物事の経過
- B 物事の結末
- C 事件の動機
- D 事件の発端

⑩ 意匠

- A 修行すること
- B 真意を探ること
- C 混乱すること
- D 工夫をこらすこと

現代における科学の発達はすばらしいものです。以前にはまったく神秘と思われたことがらの数多くが今では科学的に解明されるようになってきました。**したがって**、われわれがともすれば一切は科学によって解明されるであろうという期待を持つにいたることは無理からぬことです。**しかし**、それだからといってわれわれがすべてを科学的に研究すれば、それで万事が解決するというものではありません。

科学はただ事物のあり方を解明するものです。事物がいかなる仕方
で存在するかということ、それがどういう構造を持っているかとい
うことを解明するものです。事実判断と価値判断とを混同してはなり
ません。科学が与えうるのは、このうちの事実判断のみです。**そうであ
るとすれば**、科学がいくら発達したところで、一切が科学で解決され
るということは**ないはず**です。**なぜなら**、科学が価値判断を与えない
とすれば、われわれはどうしても価値判断を与えてくれるものを必要
とするからです。

実際われわれは価値判断なしには生きてゆくことができません。わ
れわれは生きてゆく限り絶えず行為をしなければなりません、行為
するに当たってはいかなる行為をなすべきかということを考えねばな
りません。どういう行為がよいかという価値判断を下さねばなりませ
ん。われわれにとって不可欠なこの価値判断が科学によって与えられ
ないとするならば、われわれには科学以外のものがが必要です。**そして**
この価値判断を与えようとする**ことが哲学の主たる仕事といえるので
はないでしょうか。****そうであるとすれば**、われわれは哲学**というものを
否定し去ることはできないはず**です。

【科学について】

【哲学について】

このように、「科学」は事物のあり方を解明し事実判断をするだけです。そのため、科学だけで万事解決するわけではないのです。したがって、正解は②。他の選択肢は「科学は事実判断しかできない」という内容になっていません。

【解答】 ②

解説 語彙問題 ①

1	隘路 あいろ	主な意味 ①狭い通路。狭くて通りにくい路。「山間の隘路」 ②物事を進めるのに障害となるもの。「販路拡大の隘路」	解答 B
2	斡旋 あつせん	主な意味 間に入って、両者がうまくいくようにとりもつこと。「就職の斡旋」	解答 C
3	軋轢 あつれき	主な意味 人の仲が悪くなること。「両者の間に軋轢が生じる」	解答 D
4	綾 あや	主な意味 ①文章などの表現上の技巧。「言葉の綾」 ②物の表面に表れたいろいろの形・色合い。「綾を描く」 ③入り組んだ仕組み。「勝負の綾」	解答 A

問 傍線部「われわれがすべてを科学的に研究すれば、それで万事が解決するというものではありません」とあるが、筆者がそのように考えるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

① どれだけ科学が発達しても、世の中には解明できない事物が確実に存在するから。

② 科学は事物の存在の仕方や構造を明らかにする役割を果たすだけであるから。

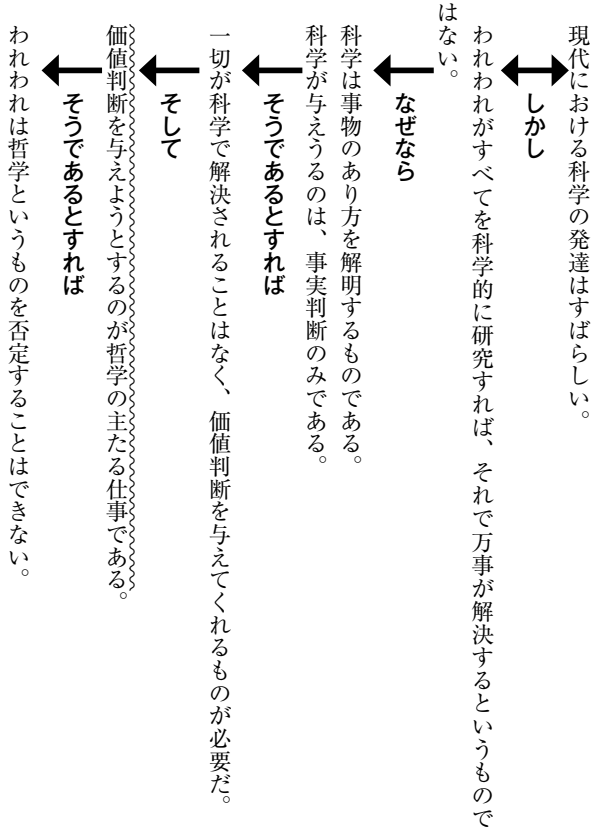
③ われわれは事実に関する判断とその価値に関する判断とを混同することがあるから。

④ 科学で解明できるのは事物の表面的な部分に過ぎず、その核心は分かっていないから。

設問解説

科学と哲学に関する文章です。科学が果たすのは「事実判断」だけなので、「価値判断」をする哲学の必要性を筆者は説いています。

■論理の整理



5	阿諛 あゆ	主な意味 相手の気に入るようなことを言ったりしたりすること。「阿諛追従」	解答 B
6	有り体 ありてい	主な意味 ありのまま。いつわりのないこと。「有り体に言えば」	解答 C
7	安逸 あんい	主な意味 何もせず遊び暮らすこと。「安逸に日々を送る」	解答 A
8	行脚 あんぎゃ	主な意味 ①徒歩で諸国を旅すること。「全国行脚に出る」 ②僧が修行のために諸国をめぐること。「西国を行脚する」	解答 B
9	経緯 いきさつ	主な意味 物事の経過。また、込み入った事情。「事件の経緯を説明する」	解答 A
10	意匠 いしょう	主な意味 ①工夫をめぐらすこと。趣向。「意匠を凝らす」 ②デザイン。「個性的な意匠」	解答 D

読解問題 14

●次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

料理の名人が凡人とまったく違うのは材料選びであるという。いかなる鉄人も食すべき素材なしで逸品を調理する術を持たない。文章でも、この内容面で言うべきものを持たない場合は、あとどんな包丁さばきで秘術をつくしてみても、すぐれた文章はけっして生まれない。文章を練るのは錬金術ではないのである。

一方、どんなに高価な松阪牛の霜降り肉や本まぐろの大トロでも、あるいは伊勢海老やキャビアや国産の大松茸でも、調理次第で見ても無残な最期を遂げる。これは文章でも同じだ。作品価値の八割をきめる内容面でどれほどすぐれた主題や題材が選びぬかれても、あとの二割を占める表現面でそれを生かす技術が伴わずに、せっかくの好素材をすっかりだめにしてしまうことも珍しくない。つまり、文章力次第で、同じ素材が傑作にも駄作にも変貌するのである。

なぜこういうことが起こるのか。それは不思議でも何でもない。素材は書き手の側にあつて、まだ具体的なことばの姿をしていない。作品は読み手の側に届いてはじめて価値を発揮する。書き手は誰でも自分ではわかっているつもりなのだ。ところが、あいにく他人は自分ではない。自分のコードで考えているかぎり、コミュニケーションはスムーズに運ばない。すぐれた内容がそのまま無傷で伝わるためには、書き手側のコードから読み手側のコードに翻訳する必要がある。文章を書く際に感じる困難の大半は、この切り替えのむずかしさなので

5

はなかるうか。

書き手自身に対する誠実さと読み手に対する思いやりという相反する*ベクトルをどう調節するか。切り替え作業のなかでどう折り合いをつけるか。それが表現における認識と言語の技術である。表現のセンスとは、こう書けば相手にこう受け取られるという面での判断のよさと、しなやかな対応力なのだろう。そういう当然の配慮を的確に実行に移すには、技術の裏づけがむろん必要だ。しかし、私たちにもっとも必要でもっとも欠けているのは、高度な表現技術ではない。あたりまえのことをあたりまえに実行する心の働き、すなわち、表現のセンスというものであるような気がする。文章力の基本は読み手を思いやる、そういう心くばりなのだと思う。

(中村明「文章工房」による)
*ベクトル…大きさと向きを有する量。

問 傍線部「書き手側のコードから読み手側のコードに翻訳する」とはどういうことか、説明せよ。

20

語彙問題 14

●次の言葉の意味として、最も適当なものをA～Dから一つ選べ。

131 市井

- A 俗世間
- B 上流階級
- C 空想の世界
- D 理想社会

132 自堕落

- A だらしない
- B 貧しい
- C 立派である
- D 卑屈である

133 桎梏

- A 幸福
- B 束縛
- C 平等
- D 理不尽

134 奢侈

- A 貧困
- B 傲慢
- C 贅沢
- D 質素

135 写実

- A 物事をありのままにうつすこと
- B 物事の特徴を際立たせること
- C 事実を誇張してうつしとること

D 真実であるかのように見せること

136 捨象

- A 不純物を捨てること
- B 誰でも知っていることを捨てること
- C すべてに共通する部分を捨てること
- D 本質的でない特殊な部分を捨てること

137 洒脱

- A 度を超えていること
- B 知的であること
- C あかぬけていること
- D 古風であること

138 周知

- A 普通であること
- B 広く知られていること
- C 知性のあること
- D 一部の人に知られていること

139 醜聞

- A 愚痴
- B 言い訳
- C よくない風評
- D 噂話

140 衆目

- A 素人の目
- B 部外者の目
- C 大人の目
- D 多くの人の目

料理の名人が凡人とまったく違うのは材料選びであるという。いかなる鉄人も食すべき素材なしで逸品を調理する術を持たない。文章でも、この内容面で言うべきものを持たない場合は、あとどんな包丁さばきで秘術をつくしてみても、すぐれた文章はけっして生まれない。文章を練るのは錬金術ではないのである。

【料理と文章の共通点】
一方 どんなに高価な松阪牛の霜降り肉や本まぐろの大トロでも、あるいは伊勢海老やキャビアや国産の大松茸でも、調理次第で見ても無残な最期を遂げる。これは文章でも同じだ。作品価値の八割をきめる内容面でどれほどすぐれた主題や題材が選ばぬかれても、あとの二割を占める表現面でそれを生かす技術が伴わずに、せっかくの好素材をすっかりだめにしてしまうことも珍しくない。つまり 文章力次第で、同じ素材が傑作にも駄作にも変貌するのである。

なぜこういうことが起こるのか。それは不思議でも何でもない。素材は書き手の側にあって、まだ具体的なことばの姿をしていない。作品は読み手の側に届いてはじめて価値を発揮する。書き手は誰でも自分ではわかっているつもりなのだ。ところが あいにく他人は自分ではない。自分のコードで考えているかぎり、コミュニケーションはスムーズに運ばない。すぐれた内容がそのまま無傷で伝わるためには、書き手側のコードから読み手側のコードに翻訳する必要がある。文章を書く際に感じる困難の大半は、この切り替えのむずかしさなのではなからうか。

書き手自身に対する誠実さと読み手に対する思いやりという相反する*ベクトルをどう調節するか。切り替え作業のなかでどう折り合いをつけるか。それが表現における認識と言語の技術である。表現のセンスとは、こう書けば相手にこう受け取られるという面での判断のよ

さと、しなやかな対応力なのだろう。そういう当然の配慮を的確に実行に移すには、技術の裏づけがむろん必要だ。しかし 私たちにもっとも必要でもっとも欠けているのは、高度な表現技術ではない。あたりまえのことをあたりまえに実行する心の動き、すなわち 表現のセンスというものであるような気がする。文章力の基本は読み手を思いやる、そういう心くばりなのだと思います。

問 傍線部「書き手側のコードから読み手側のコードに翻訳する」とはどういうことか、説明せよ。

設問解説

料理において材料と調理する腕前が大切であるのと同様、文章を書くときは内容と文章力の両方が必要だと筆者は考えています。そして、文章力とは高度な表現技術ではなく、読み手のことを思いやることだと筆者は述べています。

■論理の整理

文章を書くときは書くべき内容が必要であるが、文章力次第で傑作が駄作になることもある。

← なぜなら

文章は読み手側に届いてはじめて価値を発揮するが、読み手は自分ではないからだ。

← だから

自分のコードで考えているかぎりコミュニケーションはスムーズに運ばない。

← だから

読み手を思いやることで、自分の考えが正しく伝わるような文章にする必要がある。

＝

書き手側のコードから読み手側のコードに翻訳する必要がある。

このように自分本位の文章から読み手本位の文章にすることが傍線部の意味することなのです。

【解答例】 自分ではわかっているつもりのことでも、読み手がどう受けとるかを思いやることで、自分の考えが正しく伝わるような文章にすること。

解説

語彙問題 14

131	市井	主な意味	人の家が集まる所。まち。巷。「市井の人（庶民）」	解答	A
-----	----	------	--------------------------	----	---

132	自堕落	主な意味	態度がだらしないこと。「自堕落な生活」	解答	A
-----	-----	------	---------------------	----	---

133	桎梏	主な意味	自由な行動を妨げるもの。「家庭が桎梏となる」	解答	B
-----	----	------	------------------------	----	---

134	奢侈	主な意味	度をこえてぜいたくなこと。「奢侈をきわめる」	解答	C
-----	----	------	------------------------	----	---

135	写実	主な意味	物事をありのままに写すこと。「写実的な作風」	解答	A
-----	----	------	------------------------	----	---

136	捨象	主な意味	物事を考察するとき、個々がもっている特殊な性質を取り除くこと。「個別要素を捨象する」	解答	D
-----	----	------	--	----	---

137	洒脱	主な意味	さっぱりしていて俗っぽくないこと。あかぬけていること。「洒脱な文章」	解答	C
-----	----	------	------------------------------------	----	---

138	周知	主な意味	広く知れ渡っていること。「周知の事実」	解答	B
-----	----	------	---------------------	----	---

139	醜聞	主な意味	よくない評判。スキャンダル。「醜聞が明るみに出た」	解答	C
-----	----	------	---------------------------	----	---

140	衆目	主な意味	多くの人の目。「衆目の一致するところ」	解答	D
-----	----	------	---------------------	----	---

読解問題 27

●次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（大学入試センター試験）

美術館という施設にはさまざまな機能があるが、その中心となるのは当然ながら作品の収集と展覧会の開催である。研究機関や情報センターとしての役割、美術館教育、また最近話題になっている*アーチスト・イン・レジデンスなどは、この二つの機能から派生した活動、あるいはそれを補完し充実させるための活動と言つてよい。もつとも5作品収集は一般的には常設展示に結び付くことを前提としているから、観客にとつてはもつぱら美術館＝展覧会ということになるだろう。それに最近では水戸芸術館のように原則として作品収集はせず、企画展だけの活動で注目されている施設も生まれている。

しかし考えてみれば展覧会とは不思議なものである。私たちは展覧会に慣れ親しんでいるから、まったく疑問に思わないが、美術作品というものの本来のありように照らせば、何とも不自然な鑑賞形式ではないだろうか。アトリエでの孤独な営為によつて生まれた作品は、一点一点が自立した価値を持ち、単独で鑑賞されるものであつて、必ずしも展覧会という形式、つまり多くの作品を集めて同時に同じ場所で鑑賞させる形式を必要としないはずである。特定のテーマを掲げた展覧会の文脈の中に位置づけられ、他の作品と相互に比較されることで、初めて表現として完結するといったものではないのだ。

展示は多くの場合、傾向別に分類するとか、逆に異なつたものを對比するとか、あるいは年代順に並べるといった、作品自体の「外」に20

ある基準に依拠している。悪くいえばそうした方針は事後的に捏造されたものであつて、自立した作品の鑑賞の妨げになりかねない。何も作品は他人が勝手につくつた文脈に奉仕しなければならない謂われはないのである。

（建畠哲「美術館のジレンマ」による）
*アーチスト・イン・レジデンス：芸術家に宿舍と創作の場と作品発表の場を提供し、創作活動を支援すること。

問 傍線部「展覧会とは不思議なものである」とあるが、筆者がそのように述べるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 展覧会では、その美術館が収集した作品だけでなく、他の美術館から集められた作品も展示されることが多いから。
- ② 展覧会では、作品が自立した価値においてではなく、他の作品との比較を促す外的な基準に則して展示されるから。
- ③ 展覧会では、アトリエで孤独に制作された作品の個性を損ねることなく、多くの作品を同時に鑑賞させているから。
- ④ 展覧会では、作品を展示するだけではなく、研究機関や情報センターなどとしての美術館の役割も期待されるから。
- ⑤ 展覧会では、自立した作品に特定の文脈を与えてしまうが、それはあくまでも事後的なもので鑑賞を妨げないから。

語彙問題 27

●次の言葉の意味として、最も適当なものをA～Dから一つ選べ。

261 不如意

- A 思うようにならないこと
- B 人情がないこと
- C 不満であること
- D 理解できないこと

262 不憫

- A 鈍いこと
- B かわいそうであること
- C 慣れていること
- D 恥ずかしいこと

263 不文律

- A 特定の個人が勝手に決めただけの約束事
- B 暗黙のうちに互いに了解している決まり
- C ある集団で明文化されている規則
- D 古文書に記されている守るべき戒律

264 普遍

- A 日常的事であること
- B 広くゆきわたること
- C 歴史的に継承されていること
- D 特殊であること

265 噴飯

- A 怒りのあまり声が出ないこと

266 憤懣

- A 満足
- B 怒り
- C 焦り
- D 祈願

267 睥睨

- A 謝罪すること
- B 承知すること
- C 威圧すること
- D 争うこと

268 平板

- A 忙しいこと
- B とても薄いこと
- C 融通がきかないこと
- D おもしろみのないこと

269 蔑視

- A 不満があること
- B 興味があること
- C ばかにすること
- D 特別扱いすること

270 便宜

- A 障害となるもの
- B 賢明な選択
- C 便利な道具
- D 特別のはからい

美術館という施設にはさまざまな機能があるが、その中心となるのは当然ながら作品の収集と展覧会の開催である。研究機関や情報センタ―としての役割、美術館教育、また最近話題になっている*アーチスト・イン・レジデンスなどは、この二つの機能から派生した活動、あるいはそれを補完し充実させるための活動と言ってよい。もともと5作品収集は一般的には常設展示に結び付くことを前提としているから、観客にとってはもっぱら美術館＝展覧会ということになるだろう。それに最近では水戸芸術館のように原則として作品収集はせず、企画展だけの活動で注目されている施設も生まれている。

しかし考えてみれば展覧会とは不思議なものである。私たちは展覧10会に慣れ親しんでいるから、まったく疑問に思わないが、美術作品というものの本来「理由」ように照らせば、何とも不自然な鑑賞形式ではないだろうか。アトリエでの孤独な営為によって生まれた作品は、一点一点が自立した価値を持ち、単独で鑑賞されうるものであって、必ずしも展覧会という形式、つまり多くの作品を集めて同時に同じ場所15で鑑賞させる形式を必要としないはずである。特定のテーマを掲げた展覧会の文脈の中に位置づけられ、他の作品と相互に比較されることで、初めて表現として完結するといったものではないのだ。

展示は多くの場合、傾向別に分類するとか、逆に異なったものを対20比するとか、あるいは年代順に並べるといった、作品自体の「外」にある基準に依拠している。悪くいえばそうした方針は事後的に捏造されたものであって、自立した作品の鑑賞の妨げになりかねない。何も作品は他人が勝手につくった文脈に奉仕しなければならない謂われはないのである。

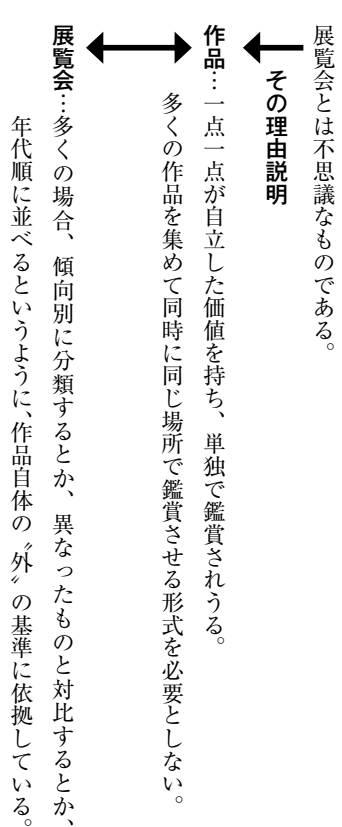
問 傍線部「展覧会とは不思議なものである」とあるが、筆者がそのように述べるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 展覧会では、その美術館が収集した作品だけでなく、他の美術館から集められた作品も展示されることが多いから。
- ② 展覧会では、作品が自立した価値においてではなく、他の作品との比較を促す外的な基準に則して展示されるから。
- ③ 展覧会では、アトリエで孤独に制作された作品の個性を損ねることなく、多くの作品を同時に鑑賞させているから。
- ④ 展覧会では、作品を展示するだけではなく、研究機関や情報センタ―などとしての美術館の役割も期待されるから。
- ⑤ 展覧会では、自立した作品に特定の文脈を与えてしまうが、それはあくまでも事後的なもので鑑賞を妨げないから。

設問解説

展覧会に関する文章です。筆者は第2段落の冒頭で「展覧会は不思議なものである」と述べ、以下でその理由を説明しています。

■論理の整理



このように単独で鑑賞されうるものを、作品自体の「外」の基準に依拠しているから、展覧会は不思議なのです。したがって、正解は②。

① 「その美術館が収集した作品だけでなく、他の美術館から集められた作品も展示されることが多い」という点を筆者は展覧会の不思議さと考えていません。

③ 「作品の個性を損ねることなく」が間違いです。むしろ個性を損ねていると筆者は考えています。

④ 「研究機関や情報センタ―などとしての美術館の役割も期待されるから」は、単に展覧会の機能を説明しただけで、展覧会の不思議さの説明にはなりません。

⑤ 「鑑賞を妨げないから」が間違いです。むしろ、鑑賞を妨げると筆者は考えています。

解答 ②

解説

語彙問題 27

261	不如意	主な意味	思うようにならないこと。「手元が不如意だ」	解答	A
262	不憫	主な意味	かわいそうであること。「不憫な子ども」	解答	B
263	不文律	主な意味	ある集団の中で、暗黙に了解されている約束事。「言い訳をしないのが不文律」	解答	B

264	普遍	主な意味	すべてのものに共通して当てはまること。「人類普遍の原理」	解答	B
265	噴飯	主な意味	ばかばかしくて、思わず笑い出すこと。「噴飯の至り」	解答	D
266	憤懣	主な意味	腹が立って、我慢できないこと。「憤懣やるかたない」	解答	B
267	睥睨	主な意味	にらみつけて、威圧すること。「あたりを睥睨する」	解答	C
268	平板	主な意味	変化がなく単調であること。「平板な描写」	解答	D
269	蔑視	主な意味	軽蔑の目で見ること。「女性蔑視は改めるべきだ」	解答	C
270	便宜	主な意味	①特別のはからい。「便宜をはかる」 ②都合のよいこと。「便宜の方法」	解答	D

現代文

集中トレーニング③

- ・ 小説問題を解く
- ・ 重要語彙 300



読解問題①

●次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、操さとはこの小説の主人公である男子中学生の名前である。

ほぼ二年ごとに赴任地のかわる父にともない、操は季節はずれの転居をした。晩秋の肌寒い頃である。家の前を通りかかる生徒にまじって新たな学校へ向かった。おつくうなのと意気地のないのとで自分から口をきくことができず、同じ紺色でも操の着ているのとは微妙にちがう制服の群れをやり過ごした。操は終始、顔をうつむけて歩いていた。聞こえる声はすべてよそよそしく思われ、路の端へ端へと体が傾く。枯れ葉の吹きだまりでときおり靴底がすべった。

教員室での手続きはどこの学校も同じで、そろえてある書類を提出するだけでよかった。担任教師にもなわれて教室へ向かうころに、ようやく覚悟がさだまる。当面の目標は窮屈な初対面の儀式を、ともかくも済ませてしまうことだ。あとは成り行きまかせでいい。操は廊下や階段の貼り紙、かすかにしみた墨汁のにおいなどに気づく余裕が

飾り気のない校舎だが、手入れはよく行き届いている。磨かれた窓から、操を励ますように澄明な碧あおい天が見えた。下駄箱や廊下に、運動用具がならんでいるのが、ひとまず操を安堵させた。度重なる転校で、早々と校風を見抜く眼力だけはたけていた。学校によってはボールや体操器具がこれみよがしに廊下へならび、ひとりひとりがいかに熱心にそれと取り組んでいるかを誇らしげにあらわした。操は小柄で

非力なのを気にしている。生徒をひとりもらさず運動に駆り立てる一致団結の精神には、もつともなじめないのだ。

教室への第一歩は、これまでに経験した緊張や気詰まりと似たり寄ったりだった。少しでもよめき、ひそひそ声に変わる。操は力の抜けた声で、面白みのないあいさつをし、指定された席へおとなしく腰かけた。

隣りあう生徒の好奇心を満たすだけの応答を小声でかわした後は、不慣れな教科書へ目を落とした。字面を目で追っても、頭へ入ってこない。その後、生徒たちはざわつくこともなく教室は平静に戻った。操は、またしても取るに足らない生徒だと評価されたことを察した。

（長野まゆみ「鳩の栖」による）

問 傍線部「字面を目で追っても、頭へ入ってこない」とあるが、このときの操の心情の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 好奇心からさまざまな声をかけてくる生徒たちにうんざりしている。
- ② 新しい教科書の内容が理解できず、授業についていけないことを危惧している。
- ③ 新しい環境になったので、これから始まる学校生活に期待を高めている。
- ④ 周りの生徒たちが自分のことをどのような存在として見るのかが気になっている。

--

語彙問題①

●傍線部が（ ）内の意味を持つ慣用的表現になるように、□に適当なひらがなをあてはめよ（□にはひらがな一字が入る）。

1 成功にあ□□をかく。
（何かにたよって努力を怠る）

2 □□図らんや、合格してしまった。
（意外にも）

3 これはい□□付きの品物だ。
（特別の事情があるもの）

4 彼はう□□の上がらない男だ。
（出世できない）

5 趣味にう□□を抜かしている場合ではない。
（夢中になっている）

6 コスト削減のため大□□を振るう。
（予算や人員を思い切ってけずる）

7 彼はそのことをお□□にも出さなかった。
（心に秘めて、一切言わなかった）

8 専門家のお□□付きをもらった。
（権威ある者から得た保証）

9 おため□□□の親切など要らない。
（相手のためにするように見せかけて、実際は自分の利益を図る）

10 観衆はか□□を飲んで試合を見守った。
（事の成り行きを案じて息をこらして）

ほぼ二年ごとに赴任地のかわる父にともない、操は季節はずれの転居をした。晩秋の肌寒い頃である。家の前を通りかかる生徒にまじって新たな学校へ向かった。おつくうなのと意気地のないので自分から口をきくことができず、同じ紺色でも操の着ているのとは微妙にちがう制服の群れをやり過ごした。操は終始、顔をうつむけて歩いていく。聞こえる声はすべてよそよそしく思われ、路の端へ端へと体が傾く。枯れ葉の吹きだまりでときおり靴底がすべった。

教員室での手続きはどここの学校も同じで、そろえてある書類を提出するだけでよかった。担任教師にともなわれて教室へ向かうころに、ようやく覚悟がさだまる。当面の目標は窮屈な初対面の儀式を、ともかくも済ませてしまうことだ。あとは成り行きまかせでいい。操は廊下や階段の貼り紙、かすかにしみた墨汁のにおいなどに気づく余裕がでた。

飾り気のない校舎だが、手入れはよく行き届いている。磨かれた窓から、操を励ますように澄明な^{澄み、天が}「操の心情」が見えた。下駄箱や廊下に、運動用具がならんでいないのが、ひとまず操を安堵させた。度重なる転校で、早々と校風を見抜く眼力だけはたけていた。学校によってはボールや体操器具がこれみよがしに廊下へならび、ひとりひとりがいかに熱心にそれと取り組んでいるかを誇らしげにあらわした。操は小柄で非力なのを気にしている。生徒をひとりもらさず運動に駆り立てる一

致団結の精神には、もつともなじめないのだ。教室への第一歩は、これまでに経験した緊張や気詰まりと似たり寄ったりだった。少しだけよめき、ひそひそ声に変わる。操は力の抜けた声で、面白みのないあいさつをし、指定された席へおとなしく腰かけた。

隣りあう生徒の好奇心を満たすだけの応答を小声でかわした後は、不慣れな教科書へ目を落とした。字面を目で追っても、頭へ入ってこない。その後、生徒たちはざわつくこともなく教室は平静に戻った。操は、^{「操の心情」}またしても取るに足らない生徒だと評価されたことを察した。

問 傍線部「字面を目で追っても、頭へ入ってこない」とあるが、このときの操の心情の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 好奇心からさまざまな声をかけてくる生徒たちにうんざりしている。
- ② 新しい教科書の内容が理解できず、授業についていけないことを危惧している。
- ③ 新しい環境になったので、これから始まる学校生活に期待を高めている。
- ④ 周りの生徒たちが自分のことをどのような存在として見るのかが気になっている。

設問解説

「下駄箱や廊下に、運動用具がならんでいないのが、ひとまず操を安堵させた」(15～16行目)とあるので、転校してきた操はこの段階では少し安心しています。しかし、「ひとまず」とあることから考えると、操は完全に安心したのではなく、まだ不安な気持ちを持っています。そのため、教室に入ってから着いた後も何かが気になっていて、「字面を目で追っても、頭へ入ってこない」という状態になっています。

では、何を気にしているのかといえば、「操は、またしても取るに足らない生徒だと評価されたことを察した」(29行目) から考えて、「自分が周りの生徒にどのような見られるだろうか」を気にしていたのだとわかります。

■心情の整理

操は自分が周りの生徒にどのように見られるのかを気にしていた。

← だから

(教科書の) 字面を目で追っても、頭に入ってこない。

したがって、正解は④。

①②③は操が周囲からどのように見られるかを意識していることを説明できていません。

解答 ④

解説 語彙問題 ①

10	固唾を飲む	主な意味	事の成り行きを案じて息をこらす。
9	お為ごかし	主な意味	人のためにするように見せて、実は自分の利益を図ること。
8	お墨付き	主な意味	権威ある人から得た保証。
7	おくびにも出さない	主な意味	かたく口を閉じて、言わないようにする。
6	大鉈を振るう	主な意味	思い切って大胆に縮小したり処理したりする。
5	現を抜かす	主な意味	心奪われる。
4	うだつが上がらない	主な意味	出世したり、金銭に恵まれたりしない。
3	曰く付き	主な意味	①何か込み入った事情があること。 ②犯罪の前歴など不都合な経歴があること。
2	豈図らんや	主な意味	どうしてそんなことを考えようか。考えもしない。
1	胡座をかく	主な意味	自分は何の努力もせず、あるものに頼ってゆうゆうと構えている。

読解問題 16

●次の文章は川上健一の小説「翼はいつまでも」の一節である。夏休みに十和田湖へキャンプに行つたぼく（神山久志）は、同級生である斉藤多恵と出会い、好意を寄せる。しかしその多恵が、二期期を前に突然転校することになった。本文はそれに続く部分である。これを読んで、後の問いに答えよ。

ぼくたちは東北本線の三沢駅まで斉藤多恵を見送ることにした。小林先生と杉本夏子と阿部貞子がいっしょだった。

ぼくたちは階段をのぼって向こう側の上りホームにわたった。ホームを走って見送ることができて少しでもいっしょにいる時間が長くなるから一番うしろにしよう和阿部貞子がいっただ。ぼくたちはホームの5うしろの端にいった。斉藤多恵はリュックサックを肩からおろして身軽になった。

仙台いきの列車が到着するまではまだ少し時間があつた。ホームには人影もまばらで、太陽から避難するように階段下の北側の日陰に数人が入っていた。まだ昼をすぎたばかりだった。太陽は頭の上にあつた。ぼくは野球帽をかぶっていたので楽だったけど、彼女たちは陽射しがまぶしそうだった。ぼくは斉藤多恵をまともにみていられなかった。彼女たちが別れの言葉を交わしている間中、陽炎にゆれる線路の彼方を*みやって、さみしい気持ちに押しつぶされて涙がこぼれないようにとずっと踏んばりつづけていた。

「先生とっても残念。杉本さんが感激した斉藤さんのピアノと、神山君が感激した斉藤さんの歌を本当にきいてみたかったわ」

斉藤多恵の歌声がやむと、ぼくは視線を感じて目をあけた。ホームで、駅舎で、何人もの人々が心を奪われたようにじっと斉藤多恵をみつめている。阿部貞子は呆然と突っ立ち、杉本夏子は感嘆の大きなため息をつき、そして小林先生はうつむいて体を震わせている。

「ごめんなさいね、斉藤さん……。ごめんなさいね……」

小林先生は小さく声を震わせた。「先生、てっきりあなたは……」

「先生。謝らなければいけないのはわたしのほうなんです」

「こんなにすばらしい歌声をきいたのは初めて。斉藤さん、歌をやめないでね。斉藤さんだったら、歌手にだってなれるわ。絶対よ」

「あ、汽車がきた！」

阿部貞子の声が、負け試合のゲームセットを告げる、審判の冷酷な声のようにきこえた。北にのびる線路のカーブを曲がって、黒い蒸気機関車が長い客車をひいてやってくるのがみえた。

（川上健一「翼はいつまでも」による）
*みやって…目を向けて。

問 傍線部「阿部貞子の声が、負け試合のゲームセットを告げる、審判の冷酷な声のようにきこえた」とあるが、それはなぜか。久志の心情をふまえて説明せよ。

「わたしも斉藤さんの歌をきいてみたかった」と杉本夏子の明るい声。「置き土産に少しでも歌を歌ってっていうのはずうずうしいかなあ」「あ、それいいわ」小林先生の声が弾んだ。「斉藤さんお願い。少しだけ歌って。先生ぜひききたいわ」

「ええ。喜んで」
斉藤多恵があっさりと承諾したのでぼくは意外に思つて振り向いた。彼女はうれしそうに小林先生に笑顔で話しかけた。

「わたし、先生にお礼がいたいんです。おぼえていますか？ 先生が南中にやってきて、初めての音楽の時間に、わたしのことをいっしょに歌おうって一生懸命誘ってくれたこと。わたし泣いちゃったけど、本当にうれしかったんです。先生が顔を真っ赤にして歌うことのすばらしさをいってくれましたよね。わたしも本当にそうだと思つたんです。でもわたし、勇気がなくて、先生に悪くて、それで泣いたんです。でも、もう大丈夫です。神山君のおかげで勇気を持つことができるようになったんです」

みんながぼくを振り向いた。ぼくはあわててまた線路のほうをみやった。

「二期期が始まつたら、一番に先生にわたしの歌をきいてもらいたかつたんです。だから、少しでも、歌います」

少しの間、沈黙があつた。それから斉藤多恵の、あの透明感にあふれるすみきつた高音が、静かに、そして高く、どこまでもきこえていきそうな、きく者の心を洗うようなきれいな歌声となつて三沢駅の空いっぱいに広がった。

ぼくは目をつむつた。初めてきいた、あの早朝の十和田湖の光景が目に浮かんだ。

語彙問題 16

●傍線部が（ ）内の意味を持つ慣用的表現になるように、□に適当な漢字をあてはめよ（□には漢字一字が入る）。

151 □□人を刺す言葉。
（短くて、人の心をつきさす）

152 青□の志を抱く若者。
（立身出世をしようとする心）

153 政治家は清□併せ呑まなくてはいけない。
（心が広く善悪ともに受け入れなくては）

154 今日の一件はまさに□□の霹靂だ。
（思いがけない出来事）

155 社長が決めたことなのだから、是□もない。
（仕方がない）

156 彼は□牙の塔にこもりつぱなしだ。
（現実を踏まえない研究生生活）

157 孫たちの笑顔をみて相□を崩す。
（にこやかな表情になる）

158 こんなこと、私には造□ないことだ。
（たやすい）

159 側□の情に動かされる。
（あわれに思い、同情する）

160 俗□に入りやすいたとえ話。
（ふつうの人にはわかりやすい）

ぼくたちは東北本線の三沢駅まで斉藤多恵を見送ることにした。小林先生と杉本夏子と阿部貞子がいっしょだった。

ぼくたちは階段をのぼって向こう側の上りホームにわたった。ホームを走って見送ることができて少しでもいっしょにいる時間が長くなるから一番うしろにいこうと阿部貞子があった。ぼくたちはホームのうしろの端にいった。斉藤多恵はリュックサックを肩からおろして身軽になった。

仙台いきの列車が到着するまではまだ少し時間があった。ホームには人影もまばらで、太陽から避難するように階段下の北側の日陰に数人が入っていた。まだ昼をすぎたばかりだった。太陽は頭の上にあった。ぼくは野球帽をかぶる。彼女たちは陽射しがまぶしそうだつた。ぼくは斉藤多恵をまともにみていられなかった。彼女たちが別れの言葉を交わしている間中、陽炎にゆれる線路の彼方をみやって、さみしい気持ちに押しつぶされて涙がこぼれないようにとずっと踏んばりつづけていた。

「先生とっても残念。杉本さんが感激した斉藤さんのピアノと、神山君が感激した斉藤さんの歌を本当にきいてみたかつたわ」
「わたしも斉藤さんの歌をきいてみたかつた」と杉本夏子の明るい声。
「置き土産に少しだけ歌を歌ってっていうのはずうずうしいかなあ」
「あ、それいいわ」小林先生の声が弾んだ。「斉藤さんお願い。少しだけ歌って。先生ぜひききたいわ」
「ええ。喜んで」

斉藤多恵があつさりと承諾したのでぼくは意外に思つて振り向いた。彼女はうれしそうに小林先生に笑顔で話しかけた。
「わたし、先生にお礼がいたいんです。おほえていますか？先生が南中やつてきて、初めての音楽の時間に、わたしのことをいっしょに歌おうって一生懸命誘ってくれたこと。わたし泣いちゃったけど、本当にうれしかったです。先生が顔を真っ赤にして歌うことのすば

らしさをいってくれましたよね。わたしも本当にそうだと思つたんです。でもわたし、勇気がなくて、先生に悪くて、それで泣いたんです。でも、もう大丈夫です。神山君のおかげで勇気を持つことができるようになったんです」
みんながぼくを振り向いた。ぼくはあわててまた線路のほうをみやった。

「二学期が始まつたら、一番に先生にわたしの歌をきいてもらいたかつたんです。だから、少しだけど、歌います」
少しの間、沈黙があつた。それから斉藤多恵の、あの透明感にあふれるすみきつた高音が、静かに、そして高く、どこまでもきこえていきそうな、きく者の心を洗うようなきれいな歌声となつて三沢駅の空いつぱいに広がつた。

ぼくは目をつむつた。初めてきいた、あの早朝の十和田湖の光景が目に浮かんだ。

斉藤多恵の歌声がやむと、ぼくは視線を感じて目をあけた。ホームで、駅舎で、何人もの人々が心を奪われたようにじつと斉藤多恵をみつめている。阿部貞子は呆然と突っ立ち、杉本夏子は感嘆の大きなため息をつき、そして小林先生はうつむいて体を震わせている。

「ごめんなさいね、斉藤さん……。ごめんなさいね……」
小林先生は小さく声を震わせた。「先生、てっきりあなたは……」
「先生。謝らなければいけないのはわたしのほうなんです」
「こんなにすばらしい歌声をきいたのは初めて。斉藤さん、歌をやめな、多恵との別れのときがきた」
「あ、汽車がきた！」

阿部貞子の声が、負け試合のゲームセットを告げる、審判の冷酷な声のようにきこえた。北にのびる線路のカーブを曲がつて、黒い蒸気機関車が長い客車をひいてやつてくるのがみえた。

問 傍線部「阿部貞子の声が、負け試合のゲームセットを告げる、審判の冷酷な声のようにきこえた」とあるが、それはなぜか。久志の心情をふまえて説明せよ。

設問解説

久志は、十和田湖で斉藤多恵と出会つたときから多恵に好意を寄せていました。しかし、多恵は突然転校することになってしまいます。阿部貞子の「汽車がきた！」の声は、別れたくない多恵との別れのときをむかえたことを告げるものであり、だからこそ貞子の声は「負け試合のゲームセットを告げる、審判の冷酷な声」のように久志には聞こえたのです。

■心情の整理

久志は多恵に好意を寄せている。
←しかし
多恵は突然転校することになってしまった。
←
汽車の到着を伝える貞子の声は、別れたくない多恵との別れのときをむかえたことを告げるものである。
←だから
久志には「負け試合のゲームセットを告げる、審判の冷酷な声」に聞こえた。

解答例

好意を寄せている斉藤多恵と別れたくないのに、いよいよ別れなければならなくなつたから。

解説

語彙問題 16

160	俗耳に入りやすい	主な意味	ふつうの人にとって理解しやすい。
159	惻隠の情	主な意味	哀れに思う気持ち。
158	造作ない	主な意味	簡単だ。たやすい。
157	相好を崩す	主な意味	心からうれしくなつて、にこにこする。
156	象牙の塔	主な意味	芸術至上主義の人々が俗世間を離れて楽しむ孤高の立場。また、現実から逃避するような学者の生活や、大学の研究室などの閉鎖社会を指す。
155	是非もない	主な意味	やむを得ない。
154	青天の霹靂	主な意味	突然の出来事（から受ける衝撃）。
153	清濁併せ呑む	主な意味	心が広く、善でも悪でも分け隔てなく受け入れる。
152	青雲の志	主な意味	手柄を立て、立身出世しようとする心。
151	寸鉄人を刺す	主な意味	短い言葉で、人の急所や要点をつく。

読解問題 24

●次の文章は、戦後の食糧難の時代を背景としている。ある日、少年とその兄は、かつて父の使用人であった酒場の主人のところへ使いに出された。これを読んで、後の問いに答えよ。（大学入試センター試験）

秋であった。

医師は妹の肺炎に*ペニシリンがいるとつけた。金さえあれば解決することである。兄弟は包みをもたされて、それは九歳と十二歳の子供にもてるくらいの量だったが、店へやって来た。

主人はいつもの上機嫌で心得顔に二人をむかえ、包みをうけとって奥へ消えたまま出てこない。ついさつき、気むずかしい顔つきの男が呼ばれて奥へ去ったのも、包みにかかりがあると想われて弟は不安だった。

客の出入りは多かった。

「どうしたんでしょねえ」

わずかな暇をみて女主人が奥へ去り、しばらくしてもどると、二人のまえにおいてあった桃をとりあげて皮をむきはじめた。女主人はなにかいうのだろうかと顔をみつめても少年たちには黙っている。

奥で、なにかのつびきならないことがおこったのかもしれない、と弟は想像した。女主人の細い指が器用にナイフをあやつって、手の中15で桃をあたかも一つの毬まりのようにくるくるところがしながら皮をむくの彼は見ていた。皮は細い紐ひもになってテーブルの上におちた。

（野呂邦暢「白桃」による）

*ペニシリン：抗生物質。肺炎などに効く画期的な薬とされた。

*大豆滓：大豆から油をしぼり取ったかす。通常は肥料などにする。

問 傍線部「自分ひとりが乳のみ児のように道理をわきまえない子供

だと思われ、それが肚だたくもあつた」とあるが、このときの弟の心情の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 妹のためにお金を得ることだけを考えている兄に比べて、米が売れそうにもない不安から帰ってしまったおうとする自分が幼稚に感じられ、情けなく思っている。

② 必ず役目を果たすという強い意志を持って臨んでいる兄に比べて、そんな意欲を持てず放棄したいと考える自分が卑怯に思われ、怒りを感じている。

③ 桃を食べることが絶望的になり、兄に帰りたいと言ったため、周囲から兄に比べて幼稚だと思われてしまい、そんな事態を招いた自分に腹を立てている。

④ ひたすら役目を果たそうとしている兄に比べて、桃の魅力に耐えられずこの場から逃れたいと考える自分が幼く感じられ、いまいましく思っている。

⑤ 感情を表に出さない兄に比べて、桃を食べたいという欲求を抑えきれずすぐ態度に出してしまう自分が卑しく思われ、嫌悪を感じている。

皮をむかれた桃は、小暗い電灯の照明をやわらかに反射して皿の上にひっそりとのつっている。汁液が果肉の表面ににじみ出し、じわじわと微細な光の粒になって皿にしたたた。弟はテーブルから目をそむけた。

しかし、壁を見ても客の姿を見ても、目にうかぶのは輝くばかりの桃である。淡い蜜色みついろの冷たそうな果実は、目をとじてさえも鮮やかに彼の視界にひろがる。戦争以来、何年も見たことのない果実であった。女主人は客のいるカウンターへ去った。

「帰ろうよ」

弟はささやいた。

「お金をもらったら帰る」

兄がおもおもしろく宣言した。弟の目には兄がおとなっぽく映った。自分ひとりが乳のみ児にのように道理をわきまえない子供だと思われ、それが肚はらだたくもあつた。いったい兄は皿の桃をどう思っているのだろう。手をのばして触りたくもないのだろうか。*大豆滓なづととうもろこしの雑炊を食べていて、どうして平然とおちつきはらっていられるのだろう。

弟はズボンのポケットに握りこぶしを入れ背をまるくしてうなだれた。兄はいう。

「おまえが小さいときは何でもあつたのだよ。チョコレートもカステラも。忘れたのかい、食べきれずにすてるほどだった」

いよいよ弟は背をまるくした。兄が嘘うそをついているとは思わなかったが、そんなことは一つもおぼえていなかった。たぶん事実だろうが、40《何でもあつた昔》を考えるのはつらかった。《今は何もない》のだから。

語彙問題 24

●傍線部が（ ）内の意味を持つ四字熟語になるように、□□に当てはまる漢字を後の語群からそれぞれ選んで書け。

231 臥薪□□を合い言葉に猛練習をする。
（目標達成のために苦勞を重ねる）

232 頑迷□□な課長では、先が思いやられる。
（頑固で視野が狭く、正しい判断が出来ないこと）

233 毀誉□□に惑わされてはいけない。
（世間の評判）

234 合格の知らせを聞いて欣喜□□する。
（大喜び）

235 兄の軽佻□□な態度には腹が立つ。
（軽はずみ）

236 来年の大会に捲土□□を期す。
（二度敗れた者が全力を挙げてやり直す）

237 傲岸□□な態度は慎むべきだ。
（おごりたかぶって人を見下す）

238 不祥事が起こるたびに綱紀□□が叫ばれる。
（規律を引き締める）

239 父は刻苦□□して、今の地位を得た。
（ひじょうに苦勞しながら、仕事などに励む）

240 事件に関与した者の処分は秋霜□□としたものだった。
（ひじょうに厳しい）

語群	勉励	重来	雀躍	肅正	烈日	嘗胆	褒貶	浮薄	固陋	不遜
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

秋であった。

医師は妹の肺炎に*ペニシリンがいるとつけた。金さえあれば解決することである。兄弟は包みをもたされて、それは九歳と十二歳の子供にもてるくらいの量だったが、店へやって来た。

主人はいつもの上機嫌で心得顔に二人をむかえ、包みをうけとって奥へ消えたまま出てこない。ついさつき、気むずかしい顔つきの男が呼ばれて奥へ去ったのも、包みにかかりがあると思われるで弟は不安だった。

客の出入りは多かった。

「どうしたんでしょねえ」

わずかな暇をみて女主人が奥へ去り、しばらくしてもどると、二人のまえにおいてあった桃をとりあげて皮をむきはじめた。女主人はなにかいうのだから、**「何かあつたのではないかと不安」**奥で、なにかのつびきならぬことがおこつたのかもしれない、と

弟は想像した。女主人の細い指が器用にナイフをあやつつて、手の中で桃をあたかも一つの毬まりのようにくるくるところがしながら皮をむくの彼は見ていた。皮は細い紐ひもになってテーブルの上におちた。

皮をむかれた桃は、小暗い電灯の照明をやわらかに反射して皿の上にひっそりとのつている。汁液が果肉の表面にしみ出し、じわじわと微細な光の粒になって皿にしたたった。弟はテーブルから目をそむけた。

【桃が気になつて仕方がない】

しかし、壁を見ても客の姿を見ても、目にうかぶのは輝きら々ばかりの桃である。淡い蜜色みの冷たそうな果実は、目をしてさえも鮮やかに彼の視界にひろがる。戦争以来、何年も見たことのない果実であった。

女主人は客のいるカウンターへ去った。

「帰ろうよ」

弟はささやいた。

【兄は役目を果たさうとしている】

「お金をもらつたら帰る」

兄がおもしろく宣言した。弟の目には兄がおとなつた、**【自分ば幼稚だ】**

自分ひ**【怒り】**が乳のみ児のように道理をわきまえない子供だと思われ、それが肚はらだたしくもあつた。いったい兄は皿の桃をどう思っているのだろう。手をのばして触りたくもないのだろうか。*大豆大豆滓かすとうもろこしの雑炊を食べていて、どうして平然とおちつきはらつていられるのだろう。

弟はズボンのポケットに握りこぶしを入れ背をまるくしてうなだれた。兄はいう。

「おまえが小さいときは何でもあつたのだよ。チョコレートもカステーラも。忘れたのかい、食べきれずにするほどだった」

いよいよ弟は背をまるくした。兄が嘘うそをついているとは思わなかったが、そんなことは一つもおぼえていなかった。たぶん事実だろうが、《何でもあつた昔》を考えるのはつらかった。《今は何もない》のだから。

問 傍線部「自分ひとり乳のみ児のように道理をわきまえない子供だと思われ、それが肚だたしくもあつた」とあるが、このときの弟の心情の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 妹のためにお金を得ることだけを考えている兄に比べて、米が売れそうにもない不安から帰つてしまおうとする自分が幼稚に感じられ、情けなく思っている。
- ② 必ず役目を果たすという強い意志を持つて臨んでいる兄に比べて、そんな意欲を持てず放棄したいと考える自分が卑怯に思われ、怒りを感じている。
- ③ 桃を食べることが絶望的になり、兄に帰りたいと言つたため、周圀から兄に比べて幼稚だと思われてしまい、そんな事態を招いた自分に腹を立てている。
- ④ ひたすら役目を果たそうとしている兄に比べて、桃の魅力に耐えられずこの場から逃れたいと考える自分が幼く感じられ、いまいましく思っている。

- ⑤ 感情を表に出さない兄に比べて、桃を食べたいという欲求を抑えきれずすぐ態度に出してしまう自分が卑しく思われ、嫌悪を感じている。

設問解説

この問題は、お使いの役目を果たそうとする兄と、桃の魅力に誘惑されている弟の違いをつかむ問題です。弟は、そんな自分のことを幼稚に思い、怒りを覚えています。

■心情の整理

兄… 与えられた役目を果たそうとしている。
だから、弟にはおとなっぽく見える。

弟… 桃が気になつて仕方がない。
だから、そんな自分を幼稚に感じ、肚だたしく思っている。

このことを正しく説明している④が正解。

- ① 「米が売れそうにもない不安から帰つてしまおうとする自分が幼稚」は幼稚の説明として間違っています。また「情けなく思っている」は「肚だたい」の説明として不適当です。
- ② 「そんな意欲を持てず放棄したいと考える自分が卑怯に思われ」は幼稚の説明にまったくなっています。
- ③ 「周囲から兄に比べて幼稚だと思われてしまい」は本文に根拠がありません。また、「役目を果たそうとしている兄」との対比もありません。
- ⑤ 「感情を表に出さない兄に比べて」とありますが、感情を出すか出さないかが問題なのではありません。また、「自分が卑しく思われ」も幼稚の説明にはまったくなっていない。

解答 ④

解説 語彙問題 24

240	秋霜烈日	主な意味	刑罰や権威などがひじょうに厳しくて、厳かである。
239	刻苦勉励	主な意味	ひじょうに苦勞しながらも、全力で仕事や勉強に励むこと。
238	綱紀肅正	主な意味	政治のあり方や政治家・役人の態度を正す。乱れた規律を正して厳格にする。
237	傲岸不遜	主な意味	自分は偉い人間だと考えて、相手を見下す。
236	捲土重来	主な意味	一度敗れた者が、勢いを盛り返して攻めてくる。
235	轻桃浮薄	主な意味	言動が軽々しく、浅はかである。
234	欣喜雀跃	主な意味	大喜びして小躍りする。
233	毀譽褒貶	主な意味	評判などが称賛と非難のさまざまである。世間の評判。
232	頑迷固陋	主な意味	考え方に柔軟さがなく、適切に判断ができない。
231	臥薪嘗胆	主な意味	目標を達成するために苦勞を重ねる。